

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2006-296476

(P2006-296476A)

(43) 公開日 平成18年11月2日(2006.11.2)

(51) Int. Cl.

A 4 5 D 40/00 (2006.01)

F I

A 4 5 D 40/00

V

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願2005-118563 (P2005-118563)

(22) 出願日 平成17年4月15日 (2005. 4. 15)

(71) 出願人 500578146

株式会社ミロット

神奈川県横浜市神奈川区菅田町2976-12

(71) 出願人 000252528

和田工業株式会社

東京都墨田区本所3丁目21番10号

(74) 代理人 100072408

弁理士 黒田 泰弘

(72) 発明者 業天 光雄

神奈川県横浜市神奈川区菅田町2976-12 株式会社ミロット内

(72) 発明者 竹田 進

東京都墨田区本所3-21-10 和田工業株式会社内

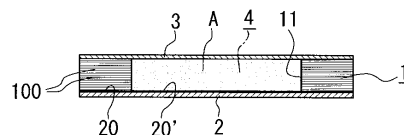
(54) 【発明の名称】化粧料サンプル容器

(57) 【要約】

【課題】消費後の廃棄が容易で環境にやさしく、製作も安価に行える構造簡易な化粧料サンプル容器を提供する。

【解決手段】紙材を高密度に圧縮してなる窓穴付き容器本体と、この容器本体の裏面に接着され、窓穴底内に接着層を露出させた紙製ベースと、容器本体の表面に装着された生分解性透明フィルムとを供えた。

【選択図】図2



## 【特許請求の範囲】

## 【請求項 1】

紙材を高密度に圧縮してなる窓穴付き容器本体と、この容器本体の裏面に接着され、窓穴底内に接着層を露出させた紙製ベースと、容器本体の表面に装着された生分解性透明フィルムとを供えたことを特徴とする化粧料サンプル容器。

## 【請求項 2】

容器本体が共通の紙製ベース上に複数枚隣接して接着されている請求項 1 に記載の化粧料サンプル容器。

## 【請求項 3】

容器本体が間隔をあけて複数の窓穴を設けており、紙製ベースが容器本体のほぼ全面に接着されている請求項 1 に記載の化粧料サンプル容器。 10

## 【発明の詳細な説明】

## 【技術分野】

## 【0001】

本発明は粉末化粧料のサンプル容器に関する。

## 【背景技術】

## 【0002】

ファンデーション、白粉、頬紅、口紅、アイシャドウなどの粉末状化粧料においては、色合い、皮膚へのなじみ、載り具合などを宣伝したり、確かめたりすることができるように、顧客に試供品(サンプル)として提供することが行われている。 20

## 【0003】

こうした試供品は、一般に、浅い収容部を形成した容器に少量の化粧料を装填したものとなっているが、従来この種のサンプル容器は、先行技術のように合成樹脂の成形体で構成されていたので、消費された後の廃棄処理に問題があり、環境に適合しがたかった。ことに、この種の容器は、2つ折り形式や冊子形式の宣伝広告媒体内に装着されて頒布されるが、広告媒体は紙製であるので、これから剥離分別して廃棄しなければならないわずらわしさがあった。

【特許文献 1】特開平 11-56465 号公報

【特許文献 2】特開 2000-139558 号公報

## 【発明の開示】 30

## 【発明が解決しようとする課題】

## 【0004】

本発明は前記のような問題点を解消するためになされたもので、その目的とするところは、消費後の廃棄が容易で環境にやさしく、製作も安価に行える構造簡易な化粧料サンプル容器を提供することにある。

## 【課題を解決するための手段】

## 【0005】

上記目的を達成するため本発明は、紙を高密度に圧縮してなる窓穴付き容器本体と、この容器本体の裏面に接着され、窓穴底内に接着層を露出させた紙製ベースと、容器本体の表面に装着された生分解性透明フィルムとを供えたことを特徴としている。 40

## 【発明の効果】

## 【0006】

本発明によるときには、容器が紙製であるため軽量であり、また、収容部底に接着層があるため化粧料の装填も容易であり化粧料が別の皿状容器に充填されている場合も、特別な接着作業を要せずに固定することができる。容器本体が高密度に圧縮してなるため化粧料が容器構成材内に浸透することがなく、しかも、化粧料の消費後は被覆部材を含めて一般生活ごみとして簡易に廃棄することができ、広告媒体内に装着されていても、いちいち分別を要せずに廃棄できるなどのすぐれた効果が得られる。

## 【発明を実施するための最良の形態】

## 【0007】 50

1) 容器本体が共通の紙製ベース上に複数枚隣接して接着されている。

これによれば、複数種の化粧料あるいは化粧料と塗布具を簡単に組み合わせてセットにすることができる。

2) 容器本体が間隔をあけて複数の窓穴を設けており、紙製ベースが容器本体のほぼ全面に接着されている。

これによれば、単一のもので複数種の化粧料あるいは化粧料と塗布具を装填することができる。

#### 【実施例 1】

##### 【0008】

以下添付図面を参照して本発明の実施例を説明する。

10

図 1 と図 2 は本発明による化粧料サンプル容器の第 1 実施例を示しており、1 は容器本体であり、所要厚さの紙材 100 を複数枚重ね合わせプレスにて圧縮して高密度化することで構成されており、周縁部 10 を残存させて所要の大きさの窓穴 11 を設けている。

この窓穴 11 は、予め紙材 100 にあけておいて積層することで構成してもよいし、窓穴 11 を設けない状態で積層した後、パンチなどで抜き加工することで得てもよい。窓穴はストレートでもよいし、テーパ状をなしていてもよい。

##### 【0009】

2 は容器本体 1 とほぼ一致する面積の紙製ベースであり、表面には全体に接着層 20 を有し、前記窓穴付き容器本体 1 の裏面に接着されている。窓穴 11 の部分に接着層 20' が表出することで収容部 4 の底を構成しており、ここに粉末状化粧料 A が充填されている。

20

3 は窓穴付き容器本体 1 の表面を覆う透明フィルムであり、生分解性プラスチックからなっている。

#### 【実施例 2】

##### 【0010】

図 3 と図 4 は本発明の第 2 実施例を示しており、第 1 実施例と同じ積層紙質からなる複数の窓穴付き容器本体 1A, 1B を隣接して配置し、それらの裏面に紙製ベース 2 を接着層 20 をもって接着することで、複数の浅い収容部 4A, 4B が構成されている。

この例では、片方の収容部 4A に化粧料 A が収容され、他方の収容部 4B にスポンジで代表される塗布具 B が収容されている。スポンジ B は好適には生分解性材料からなっている。

30

#### 【実施例 3】

##### 【0011】

図 5 は本発明の第 3 実施例を示しており、第 1 実施例と同じ積層紙質からなる大型の窓穴付き容器本体 1 に、間隔をあけて複数の窓穴 11A, 11B を設け、裏面に紙製ベース 2 を接着層 20 をもって接着することで、複数の浅い収容部 4A, 4B が構成されるようになっている。収容部 4A, 4B には、異なる色相あるいは性質の化粧料 A が収容されるか、化粧料 A と塗布具とが収容される。

##### 【0012】

本発明の実施例の作用を説明すると、窓穴付き容器本体 1 は所要厚さの紙材 100 を複数枚重ね合わせプレスにて圧縮して高密度化しているので、軽量でしかも剛性があり、プラスチックシートの成形体で生じがちであったたわみが生じにくいので、化粧料の割れや飛散が起こりにくい。

40

化粧料の充填は、通常、図 7(a)のように、容器本体 1 の裏面に、紙製ベース 2 を接着層 20 により接合した状態で、化粧料 A を充填圧密化し、容器本体 1 の表面に透明フィルム 3 を貼り付けることで行われる。しかし、場合によっては、図 7(b)のように、容器本体 1 の表面に透明フィルム 3 を貼り付けた状態で、後方から窓穴 11 内に化粧料 A を充填圧密化し、最後に紙製ベース 2 を窓穴付き容器本体 1 の裏面に接着する方法も効果的である。いずれにしても、窓穴 11 に対応する位置には接着層 20' があるので、圧粉された粉末化粧料 A の最下層が接着層 20' と接合し、安定した充填状態となる。

50

なお、図 6 のように、化粧料 A を予め皿 5 に充填した場合には、予め窓穴付き容器本体 1 の裏面に紙製ベース 2 を接着しておき、皿 5 を収容部 4、4 A、4 B に装填してもよい。収容部の底には紙製ベース 2 の接着層 20' が表出しているので、接着剤の塗布などの作業を要せずに、皿 5 をしっかりと固定することができる。

【0013】

上記製品 C は、たとえば、図 8 のように紙製の宣伝広告媒体 6 の一片 60 に貼りつけ、他片 61 を 2 つ折りして重ね合わせるなどして使用に供すればよい。

そして試供されて化粧料が消費されたときには、容器本体が紙質であり、透明フィルム 3 が生分解性樹脂製であるため、宣伝広告媒体 6 と分別することなく容易に廃棄することができる。

10

【0014】

なお、本発明は、交換用容器(リフィル)としても使用できる。図 9 はこの例を示しており、容器 7 の凹窪部 70 に図 1、図 3、図 5 に示されるような本発明品を装填するものである。

【図面の簡単な説明】

【0015】

【図 1】本発明による化粧料サンプル容器の第 1 実施例を示す部分切欠斜視図である。

【図 2】図 1 の I I - I I 線に沿う断面図である。

【図 3】本発明の第 2 実施例を示す斜視図である。

【図 4】第 2 実施例の断面図である。

20

【図 5】本発明の第 3 実施例を示す分解斜視図である。

【図 6】皿充填化粧料を用いた場合の部分切欠側面図である。

【図 7】(a)、(b)は化粧料直接充填の場合の説明図である。

【図 8】本発明品の使用例を示す側面図である。

【図 9】本発明を交換用容器として使用した例を示す部分的断面図である。

【符号の説明】

【0016】

1 容器本体

2 紙製ベース

3 透明フィルム

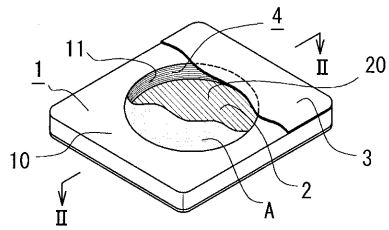
30

4、4 A、4 B 収容部

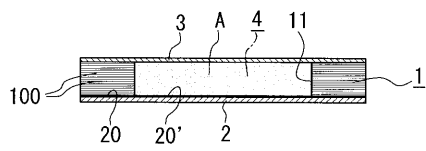
11 窓穴

20、20' 接着層

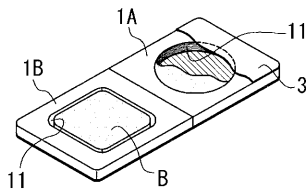
【図 1】



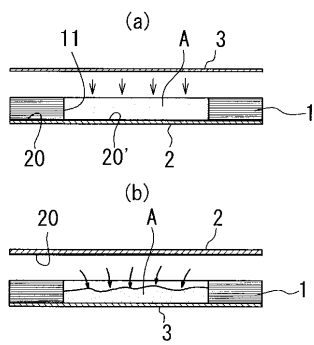
【図 2】



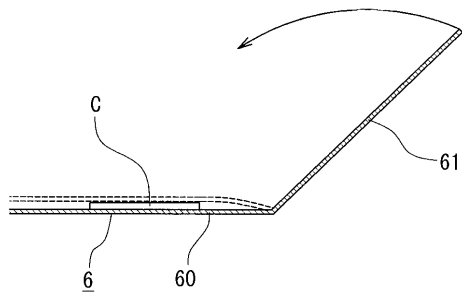
【図 3】



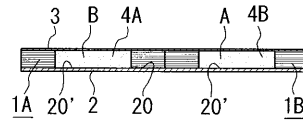
【図 7】



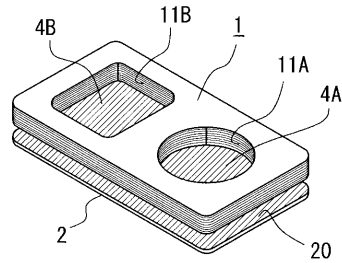
【図 8】



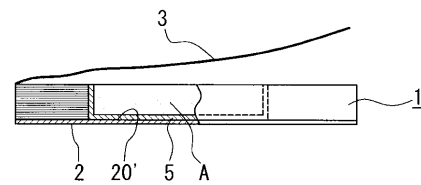
【図 4】



【図 5】



【図 6】



【図 9】

